

# 高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)



場所

早島町前潟



時代

江戸時代



指定年月日

昭和44(1969)年  
6月17日



所有

早島町

びぜんびつちゅうこつきょうひょうせき

## 備前・備中国境標石

新高総  
見梁社  
市市市

早島町

倉矢井浅里笠  
敷掛原口庄岡  
市町市市町市



### 史跡 備前・備中

早島町の歴史は、町の南部に広がる。人々は多くの労力と工費を費やして、沖新田などの新たな大地を開いた。そして、大なる干潟の開発を計画した。ところが、それを始めとする備中の旗本領の村々と対岸しく対立し、寛延・宝暦・文化の各時代、た。その結果、今ある備中方の新田の堤干潟と海は備前領にするとの裁許が下った。この干潟は備前領の村々によって開かれた。この国境標石は、1814年(文化11)を示すために建てられた10本の一つで、伝える貴重な資料である。

なお、この標石は昭和41年に盗難にあったが、元の場所から若干早島側の現在の地に



し せき

### この史跡について

早島町の歴史は、町の南部にある児島湾干拓の歴史でもあります。戦国時代後期の宇喜多堤という海の水を止める堤防の建設にはじまり、昭和31(1956)年の児島湖締切り堤防の完成まで約400年間干拓事業が行われ、国境論争や開墾反対運動など、さまざまなドラマを生み出しました。

この中で、興除新田の干拓をきっかけとした備前と備中との国境論争は約100年間争われ、文化14(1817)年に決着し、早島下前潟に国境標石が建てられました。これは、6丁(約700メートル)おきに建てられたという10本のうちの1本で、早島の干拓の歴史を物語る貴重な資料です。